



学校だより



令和5年 5月31日
6月号
調布市立第一小学校
校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> Tel.042(481)7636

かたわらに、本を

校長 樋川 宣登志

ひと月半ほど前、村上春樹氏の新作が発表になりました。6年ぶりとなる長編作品に、新宿大手書店の特設コーナーには、発売当日朝からファンが並んだそうです。400字詰め原稿用紙1200枚に及ぶ大作ですが、発売から6日目で重版が決定し、累計は35万部になるそうです。「ハルキスト」という言葉ができた訳がうかがわれます。

まるで新作スマートフォンや人気ゲームソフト発売のような様子は、活字離れと言われる昨今、少々意外です。

文学者といえば、3月にノーベル賞作家の大江健三郎氏が死去した際は、追悼として、書店に氏の代表作が並び、メディアでも書籍の話題が多く取り上げられていました。

電車やカフェで、本を読む人よりもスマホを操作している人を見かけることが多いこのごろですが、魅力的な作品や話題があると、まだまだ書籍も人気があるようです。

ある調査(*1)では、小学生のひと月の読書冊数は平均13.2冊。同調査4回連続で増加しているそうです。しかし、これが、中学生では4.7冊、高校生では1.6冊となります。一方、別の調査(*2)ですが、「1日の読書時間(電子書籍を含む)が0分」と回答した大学生は、50.5%でした。

文学や言葉を味わい、深く考えるのに読書は欠かせません。上級学校へ進むにつれて読書離れが進むのは、さびしい傾向です。

小学生の読書量は増加していますが、「読む子」と「読まない子」の差が大きい現状や、読みやすい絵本や読み物から「本格的な読書」への「壁」を越えることが難しいなどの課題があります。

何より、「本を読むのが楽しい」という気持ちを育てる術がよくわかりません。

今月、第一小では「読書旬間」の取組を行います。本の紹介や、給食でのブックメニューなど、子どもたちが本に関心をもってくれたらうれしいです。

梅雨を迎える6月。静かな雨の夜に、家族で「家読(うちどく)」をしてはいかがでしょうか。「うちの子は、本が苦手で・・・」とお悩みの方も多いと思います。特効薬はありませんが、次のようなことも少しは効果があるかと思われます。

- ・親が読書をしている姿を見せる
- ・読み聞かせをする
- ・家族で本の話をする
- ・一緒に出かけたついでに本屋に寄る
- ・出かける時に本を持って出る
- ・何となく部屋に本が置いてある
- ・テレビやパソコンの電源を切る

子どもたちには、いつもかたわらに本を携えているような人に育ってほしいです。

*1 第67回 学校読書調査(全国学校図書館協議会)

*2 第57回 学生生活実態調査(全国大学生活協同組合連合会)

6月の生活目標 身の回りの清潔に努めよう

手洗いをしっかりして、身体の清潔を心掛けてほしいと思います。また、雨の日の教室内での過ごし方を考えさせ、保健、安全に関する意識を高められるよう、指導していきます。